

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	五日市中央児童スタークラブ		
○保護者評価実施期間	2025年12月15日		～ 2026年1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2025年12月15日		～ 2026年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 20
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自立 ルールを明確に定めたり、時程の変更を少なくしたりすることで、子どもたちがルーティンが身につけられるように環境を設定している。そのため、子どもたちが自分で「今何をやるのか」を考えて行動できるように育てている。	「取り組み(療育活動)」の目標を、集団で活動することを目標とする日、運動することを目標とする日、個人で集中することを目標とする日、など明確に定めている。 目標を達成するために必要な活動を組み、必要な教材や環境設定などの準備を入念に行うことで、「成果のある」取り組みを行うことができている。	保護者や学校の先生との対話から、自信をもってできる活動を聞き、子どもが活躍できる場面を用意するようにしている。 また、子どもたちの興味・リクエストから取り組みを計画することで、自発的に活動に参加できるようにしている。
2	対話・交渉 「〇〇でなくてはならない」「〇〇してはいけない」という制限をあえて設けていない場面もあり、子どもたちがそれぞれの自己実現のために、お互いに話し合いながらルールを決めたり、譲り合ったりできるように支援している。	「取り組み」の各目標が、各曜日、一か月の中で重複しないようにスケジュールを組み、子どもたちが、日々異なる活動に参加できるようにしている。 新しい動きや考え方に会おう中で、ひとりひとりの新たな可能性を見つけられるよう療育している。	現在は、障害の重たい児童は、内容の違う取り組みを行うことが多いが、集団での取り組みの中で、その児童ができる役割を見つけ、その児童なりの参加の仕方を支援し、よりほかの児童との交流が増えるように試みている。
3	切り替え 部屋を用途ごとに使い分けながら、時間にもはっきりと区切りを設けている。子どもたちが部屋や時間帯で切り替えをすることができている。静かに机に向かう時間と、大きく体を動かして発散する時間のメリハリがついている。	子どもたちが手に取りやすい・片づけやすい環境づくりをしている。 大人に手伝ってもらわなくても道具が取り出せることで、子どもたちの「やりたい」を妨げる「一言」が不要になり、その結果、子どもたちの中で遊びを発展させることができている。	現在は、職員が「あと何分」「時間になりました」と声をかけているが、 時計が読める子を中心に、全体への声掛けを児童に任せられるように、集団の育成を図っている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	自立を図るため、先回りして助けることをしていない。 そのため、「助けられ待ち」の児童は、「助けを呼ぶ」練習から始めているが、苦手な児童にとっては、助けを呼ばないと助けてもらえない場が不安に感じられるようだ。	「最終的な目標は自分で助けを呼べるようになること」だとしても、児童の特性をよく見て、それぞれの目標をスモールステップで明確にし、その目標に向けた支援方法を見つけていく必要がある。	児発管を中心に、ひとりひとりの特性や支援のアイデア、目標を日々共有している。 全職員が児童をよく見て支援に臨めるように、職員の育成に努めていく。
2	子どもたち同士での関りは充実しているが、その分、人間関係のトラブルも多く起きている。 その日の「10人」と仲良く過ごす必要があるが、児童が、輪に入れずさみしい思いをしてしまったり、相手に合わせすぎて、過度に疲れすぎてしまったりしている。	人間関係のトラブルは、児童に必要な学びとして肯定的受け止めている。 トラブルの解決のためにも、ひとりひとりの思いを受け止めながら話をする必要があるが、利用の頻度に差があり、利用の少ない児童とは関係の改善が図りにくくなっている。	人間関係の難しさは、保護者と共有している。 デイの利用が少ない児童は、特に、トラブルの詳細を伝え、家庭との連携を図り、家庭の時間も含めて人のかかわり方を見直す時間を増やしていきたい。
3	場面の切り替えがすばやいため、入所したてで、切り替えに時間がかかる児童や、周りを見る力にまだ課題がある児童にとっては、プレッシャーを感じる空間となってしまうことがある。	見通しを持てるように、視覚掲示をしているが、絵カードが少ないため、児童によっては、情報を理解しにくいと考えられる。	直感的にわかりやすい掲示や、絵カードを増やし、場面の転換を理解しやすくする。 入所したての児童には、必要に応じて、時程を特別なものにするなど、スタートプログラムを組む。